☎026-236-3143　kurashi@shinmai.co.jp

夏休み 気になるヒアリ
冷静に 外遊びも例年通り

子どもが外で遊ぶ機会が増える夏休み。南米原産で強い毒を持つヒアリの被害を、心配する保護者は多い。環境省が子ども向けに、ヒアリの特徴や注意点などをまとめたチラシを作成する一方、専門家は冷静な対応を呼び掛けている。

チラシ「ヒアリに注意」には、見分け方や刺されたときの対処法などが、平易な表現で書いてある。環境省のサイトに掲載してあり「プリントして子どもが集まる場で配るなど、活用してください」と担当者。

ヒアリは体長2～6ミリで赤茶色をしている。土でドーム状のアリ塚（高さ数十ぜ）を作り、攻撃的なのが特徴。刺されると、熱いと感じるような強い痛みがある。人によっては、腫れたり、じんましんが現れたりする。重症化する例は少ないが、動悸（どうき）やめまい、呼吸困難に陥る場合もある。

「ただ、この夏に国内で繁殖し各地で刺される可能性は高くない。冷静な対処が大切」。そう指摘するのは、九州大准教授の村上貴弘さん。「子どもが刺されても、すぐに命に関わるわけではない。30分ほど様子を見て、異常があれば病院に行く対処で十分です」

その上で「この夏の段階で、虫捕りなどを制限するのは過剰反応。いつもの年と同じように外で遊ばせてほしい」と助言する。発見したら、近づかず、最寄りの地方環境事務所などに連絡しよう。

財布のミカタ

子どものおこづかいに悩んでいる家庭も多いのでは―。そこで、お金のプロのファイナンシャルプランナー3人に、おこづかいを通してお金の正しい使い方を教える実践例を聞きました。夏休みに「わが家のおこづかい」を、家族で考えてみましょう。（園田 清佳）

「わが家のおこづかい 夏休みに考えよう」の巻

イラスト・春原 信幸

買う際の判断力養おう。失敗重ねて学ぶことも。

7月下旬、県労働金庫塩尻支店（塩尻市）で、小学生が「おこづかいゲーム」を楽しんだ。子ども向けの金融教育を手掛けるNPO法人マネー・スプラウト（千葉県）が全国で広めているすごろくゲーム。与えられたおこづかいを元に、「ニーズ（必要なもの）」のカードを引いたら買い、「ウォント（欲しいが、必ずしも必要でないもの）」のカードでは買うか買わないかは子どもに判断させる。遊びながらお金の大切さを学んでいく。

3人の娘を育てた同法人代表の羽田野博子さん(64)は、おこづかいの一番の目的は「お金がなくなることの意味を知り、買うか買わないかの判断力を養うこと」と話す。

ゲームの公認インストラクターで、2児の母の唐沢千恵美さん(37)＝塩尻市＝は、小学4年の長男が小学1年だった時、試しに500円を渡すと、すぐマンガに使い切ってしまった。

その後、長男と「入学時に用意した鉛筆やノートがなくなったら必要なもの（ニーズ）としておこづかいから買う」など、おこづかいの使い道を「ニーズ」と「ウォント」に分ける約束事を設けた（計算表）。「ニーズ」に備える気持ちが芽生えるという。

お手伝いをした時、おこづかいをあげるのが良いかどうかは見解が分かれるところ。「お手伝いをするのは当然」という意見もある。「子どもと学ぶおこづかい講座」などを開く北村きよみさん(49)＝長野市＝は、「働いて感謝され、お金を得る経験を」と、2人の娘のおこづかいは、お手伝いに応じた歩合制をとっている（計算表）。

お手伝いの内容に応じて点数を決め、1点30円で集計し、月初めを「給料日」にしている。北村さんは、「おこづかいで何を買ったか、これから何を買いたいか、親子で話し合うことで、より賢い買い方を教えられる」と助言する。

いつ、いくらから始めたらいいのか悩んでいる人には「100円からでも。金額や方法は見直していけばいい」と羽田野さん。「財布を落としたり、早々使い切って後悔したり、子どものうちに失敗を重ね、学ぶことが大事」と話す。

口座をつくって貯金学ぼう

「おこづかいを始めたら、銀行や郵便局に子どもの口座もつくりましょう」と羽田野さん。親子一緒に窓口で手続きし、新しい通帳とキャッシュカードを受け取れば、子どもは誇らしく、意識も高まりそうだ。もちろん、通帳やカードは親が管理する。

北村さんは、2人の娘と、お年玉など臨時収入の一部を貯金するという決まりをつくった。「自分のお金という自覚と責任感も持たせるように」、銀行に一緒に行って、子どもにATM（現金自動預払機）に入金させる。

通帳の金額が増えていけば、貯金を実感できる。銀行に預ければ利息がつく仕組みも学ぶことができる。「最初は1円の利息にも大喜び。今では、おこづかいが1000円たまれば入金しにいくようになりました」

羽田野さんは、娘たちが高校生になるとキャッシュカードを渡し、おこづかいは口座に入金した。「携帯電話の使用料も子どもの口座から引き落とされるようにすれば、携帯電話の使い方への意識も高まります」

子どもが独り立ちする日に向けて、お金の使い方に責任を持てるようにおこづかいを活用してほしい。

責任感生まれ 使い方も意識

〈「財布のミカタ」次回は8月23日掲載〉

マニー

新しいものが大好きで、試してみないと気がすまない。ITに強く情報収集が得意。もちろんスマホも使ってます。

ゼニー

堅実派。節約しつつ、こつこつ小銭をためるのが楽しみ。新しい話にもすぐには飛びつかず、しっかり調べる。

意見や感想、取り上げてほしいテーマなどお寄せください。宛先は〒380―8546 長野市南県町657　信濃毎日新聞文化部「財布のミカタ」係。ファクス026・236・3194、メールkurashi@shinmai.co.jp

地域の発展に奉仕する
更埴信毎会

更埴信毎会会員
滝沢食品
サクラ精機
長野電子工業
フレックスジャパン
更埴建設株式会社
丸善食品工業
信州観光バス
サクラケア
石井瓦工業
チヨダエレクトリック
東京損害生命保険サービスオフィス

広告信毎会とは　広告信毎会は地域に根ざし、長野県民の暮らしを応援する企業でつくる信濃毎日新聞の広告組織です。

戦後間もない1953年（昭和28）、長野市内の有力広告主が集まってつくった連携・研究団体「広告信毎会」は、地域商工業会と信濃毎日新聞の共栄をはかる場として発展しました。
その後、県内各地で地域の特色を生かした広告信毎会が誕生し、現在は東京信毎会を含め、県内外主要18地域にあり、参加企業は約250社になります。

広告信毎会についてのお問い合わせ等は、こちらまでお願いします。

「広告信毎会事務局」
Eメール：k-shinmaikai@shinmai.co.jp

信濃毎日新聞社広告局内　広告信毎会事務局
〒380-8546 長野市南県町657
電話：026-236-3311　FAX：026-238-0007

YAYOI KUSAMA LOCUS OF THE AVANT-GARDE
草間彌生 前衛の軌跡　好評発売中
文 園田清佳　翻訳 永田由美子 A5判変型／176ページ／定価 本体1900円＋税

芸術家の人間性は作品として残る。私は輝くばかりの芸術を作っていきたい。－草間彌生
世界的な評価が高まる一方の草間芸術。
60年以上にわたる創作活動は、決して順風満帆ではありませんでしたが、既成の秩序にとらわれない独自の表現は、高い理想を掲げて新しい時代を切り開いてきました。
草間彌生の故郷・信州から、常に前衛であり続ける芸術の軌跡をたどります。
本書は信濃毎日新聞に2012年に連載した「草間彌生 前衛の軌跡」に加筆修正し、年代ごとの草間作品、貴重な写真を収録して再構成しました。全文和英併記。
信濃毎日新聞社出版部　〒380-8546 長野市南県町657　TEL 026-236-3377 FAX 026-236-3096　お求めは書店・信毎販売店へ。直送（要送料）も承ります